

近未来の世界遺産を目指し

財団設立 3周年記念行事

シンポジウム&パネルディスカッション

「本丸御殿の復元検討を含む江戸城等全体構想の策定並びに

江戸東京の歴史文化資源を活かした

観光まちづくりの形成を目指す」

第1弾

2020年10月18日

共催 一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

共催 一般社団法人 日本イコモス国内委員会

後援 千代田区、
東京文化資源会議、外濠再生懇談会、法政大学江戸東京研究センター、
(有)谷根千工房、(一社)文化倶楽部、
(一社)日本イコモス国内委員会第18小委員会：文化的景観
(公財)日本ナショナルトラスト、NPO法人 粋なまちづくり倶楽部、
NPO法人 たいとう歴史都市研究会、環境NGO E・C その他依頼中

目次

| | 頁 | |
|-----|-------|---|
| 9-1 | 1 | 江戸東京歴史文化ルネッサンス 2020年 今日の意義の検証 |
| 9-1 | 2 | 共催者ご挨拶 一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス 理事長 小竹 直隆 |
| 9-1 | 3 | 共催者ご挨拶 一般社団法人 日本イコモス国内委員会 副委員長 苅谷 勇雅 |
| 9-1 | 4 | 会場の様子 プロジェクト事務局スタッフのつびやき |
| 9-2 | 5 | 来賓ご挨拶 国連世界観光機関 駐日事務所 代表/初代観光庁 長官 本保 芳明 |
| 9-2 | 6-7 | 第Ⅰ部 基調講演 法政大学江戸東京研究センター 特任教授 陣内 秀信 |
| 9-2 | 8 | 第Ⅱ部 調査報告 都市史研究家 後藤 宏樹 |
| 9-3 | 9-12 | 第Ⅲ部 パネルディスカッション 学習院女子大学 国際文化交流学部 日本文化学科教授 岩淵 令治 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻准教授 海野 聡 |
| 9-4 | 13-15 | 東京都立大学大学院 都市環境科学研究科教授 清水 哲夫 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻准教授 中島 直人 法政大学 デザイン工学部教授 福井 恒明 |
| 9-4 | 16 | 第一線で活躍する気鋭の研究者へ 期待こめたメッセージ 一般社団法人 日本イコモス国内委員会 事務局長 矢野 和之 |
| 9-0 | 17 | 調査研究委員会・シンポジウム&パネルディスカッション 参加メンバー |
| | その他資料 | 役員等一覧など |

江戸東京歴史文化ルネッサンス 2020年 今日的意義の検証

1. 世界の首都は、今、歴史的文化的創造の時代に入り熾烈な都市間競争にある。先進諸国のトレンド「クリエイティブシティ」の取り組みは、歴史や多彩な文化の奥深さにより都市の品格を高めている。

2019年12月京都宣言にあるように、国連の世界観光機関（UNWTO）と国連の教育科学文化機関（ユネスコ）は、観光と文化への貢献を強化し、持続可能な開発目標へのプロセスを促進させている。

2. 「東京文化ビジョン」が掲げる伝統と革新が共存し融合する都市東京の独自性と多様性は、江戸文化やアジア、欧米に開かれたコスモポリタンの文化を発展させて、現在に至っている。しかし、既に、首都東京には、世界に誇るべき莫大な歴史文化遺産が埋蔵されている。

3. 江戸城跡は、日本一壮大で美しく、城門や石垣、豊かな水を湛えた外濠や内濠は、昔の姿を今に残し、失われた天守や本丸御殿の痕跡は、往時の姿を思い起こされる。このように雄大な景観に包まれた特別史跡江戸城跡は、十分に世界遺産に匹敵すると云われて、久しい。

一方、城下町に集められた武家や民衆にかかわる遺産、ジェンダー等の社会の問題や矛盾、また開発によって生じた災害に関わる遺産なども残されている。

こうした江戸東京の歴史や文化を世界の人々と「感動を分かち合う」為にも、その遺産について人類共有の歴史文化遺産としての本質的な価値を明らかにし、私達の使命は、次世代に継承し、近未来の世界遺産を目指していく。

4. 一方、高度経済成長期を境に、首都東京の空高く、摩天楼は今に続く。都市開発の一方で、東京の歴史性が薄れてきたことは否めない。現代都市文化と歴史性、文化的景観及び環境を尊重する都市の有り方や開発に向けて、私達も自らに問いつつ、共に学び、そして、声を上げていこう。
5. 東京の各地域では、産学官民大小のコミュニティや団体による江戸東京の多彩な文化や歴史を活かした活動や“まちづくり”が、展開され、市民の誇り（シビックプライド）となっている。多様な主体とゆるやかな交流により、都市東京の歴史文化まちづくりに貢献していく。

2020年7月

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション

共催者ご挨拶

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス 理事長 小竹 直隆



本日は、新型コロナウイルス感染の警戒が強まる中、ご多用にも関わらず、ご参集を賜り、誠に有難うございます。お蔭さまで、当会は、財団設立から3周年を迎えました。ご支援を戴いた多くの会員、関係者・関係機関、市民のみなさまに心より篤く御礼申し上げます。

本日のシンポジウム&パネルディスカッションは記念行事とさせて頂く次第でございます。本日のテーマは、近未来の世界遺産を目指し「2022年本丸御殿の復元検討を含む江戸城等全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化まちづくりの形成を目指す」の「第一弾」として位置付け、基本的な視点からのご議論を戴きたく設定しております。

ご来賓には古今東西奔走されご活躍の国連観光機関駐日代表の本保様をお迎えし、基調講演には江戸東京歴史文化のパイオニアにしてフィールドワークの第一人者の陣内様をお迎えしております。調査報告では都市史研究家の後藤様、パネルディスカッションでは、いま、正に、第一線でご活躍のそうそうたる気鋭の研究者のみなさまにお揃いを戴いております。さて、どんなお話しになるのか心待ちに期待しております。

当会との「共催」をさせて頂いております日本イコモス国内委員会さまには、調査研究委員会のアドバイザーをはじめ、一方ならぬお力添えを頂き、改めて篤く御礼申し上げます。また、千代田区をはじめとする下記の江戸東京の歴史や文化まちづくりをされている多くの団体、コミュニティの皆様には「ご後援」を賜り心より篤く御礼を申し上げます。

千代田区、
東京文化資源会議、外濠再生懇談会、法政大学江戸東京研究センター、(有)谷根千工房、
(一社)文化倶楽部、(一社)日本イコモス国内委員会第18小委員会：文化的景観
(公財)日本ナショナルトラスト、NPO法人 粋なまちづくり倶楽部、
NPO法人 たいとう歴史都市研究会、環境NGO E・C その他多数依頼中

当会は、2004年江戸城再建を目指す会の市民運動を創設以来、世論喚起を旨とする活動を展開して参りました。2017年財団法人を設立し、旧江戸城及び城下町の歴史的文化的価値を調査研究し、その成果や今日的意義を社会一般に普及・啓発・提言を行い我が国の文化芸術並びに歴史文化まちづくりの振興に寄与することを目的として活動を進めております。

さて、世界はいま、パンデミック・コロナ禍により、未曾有の嵐が吹き荒れ、社会経済の厳しい環境変化の下、江戸東京歴史文化ルネッサンスの事業も運動もまた、正に、大きな分水嶺の時を迎えている、と新たな認識を深めております。

これまでの調査研究委員会並びにシンポジウム等の成果や今日的意義をすみやかに、社会一般に、普及・啓発すると共に関係者並びに関係機関に対しご報告や具体的な提言の活動を進めて参ります。

本日は、誠に有難うございます。

以上

財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション

共催者ご挨拶

一般社団法人 日本イコモス国内委員会 副委員長 苅谷 勇雅



共催の立場から日本イコモス国内委員会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

財団は2004年に江戸東京再建運動としてスタートし、現在はより広い観点から江戸城及び城下町の全体整備構想を検討し、世界都市東京の歴史文化のまちづくりを進める方向性が出され、2017年にビジョン・5ヵ年基本計画(案)、2018年に同5ヵ年基本計画(案)が策定されました。

昨年、日本イコモスに基本計画策定委員会を設置したいというご相談が財団からあり、そのとき私達は本格的な策定委員会をお作りになる前にさらに論点を広げて、深めて、整理することが必要なのではないかと申し上げ、その結果、今年調査委員会が発足しました。

イコモスというのは国際記念物遺跡会議のことで1965年に文化遺産保護に関わる国際的なNGOとして設立され、現在参加国は151ヶ国を超え1万人以上の第一線の専門家や専門団体が世界各地で活動を行っております。世界遺産候補の調査や勧告等の活動がよく知られておりますが、そのほか世界各地の文化遺産の保護に関する課題解決のための提言、過度な開発、あるいは戦争戦乱による破壊への警告等も積極的に行っています。現在国際イコモスの会長は九州大学の河野先生が務めておられ、107ヶ国の国内委員会がございまして私達の日本イコモス国内委員会もその一つであります。

日本イコモスは東京について個別の文化財の保存や活動には関わってきたものの江戸城やその近辺についてはここ最近まではあまり関心は持ってこなかったというのが、私の正直な感想です。2018年に日本イコモス文化的景観小委員会が文化的景観としての皇居外苑の再生に関する提言を環境大臣宛に提出致しました。特別史跡江戸城跡に位置し、皇居の森や濠と一体となり継承されてきた優れた文化的景観である皇居外苑について現在の所は内堀通りで分断されております。その景観とか環境の分断を緩和する、もしくは解消するということが必要ではないか、と訴えたものであります。

今回のシンポジウムでは第一線で江戸東京の調査研究をしておられるパネラーの先生方に加えて基調講演に陣内先生にご登壇いただくことができました。陣内先生は長年江戸東京を研究され、数々の名著を著されてきた方ですが、更に江戸東京研究の深掘りと社会的関心の拡大にチャレンジされておられます。今回の講演は江戸東京の調査研究の一つのエポックメイキングなことになるのではないかと私は期待しております。

本日シンポジウムで「江戸城等全体整備構想」と「都市東京の歴史文化まちづくり」の二つのテーマについて活発に議論され、結論の一つとして「歴史まちづくり法に基づく歴史まちづくり計画の策定」を早期に進めるよう千代田区等行政機関に提言するというようなことも一つのまとめとなればと私は思います。そういう強い期待をこめてご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。以上

財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション 会場の様子



財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション プロジェクト事務局スタッフのつぶやき

山崎 麻央 この度は当会初のシンポジウム&パネルディスカッションとYouTube公開をしました。準備の段階から先生方からボランティアの方まで沢山のご指導・ご協力いただき、また会員・関係者の皆様にはご支援いただきました。お楽しみいただければ幸いです。

岩田 洋和 コロナ禍の中、無観客での開催でしたが、先生方の熱意がレンズ越しにも伝わってくるような素晴らしいシンポジウム・パネルディスカッションでした。YouTube配信という形で皆様にもお届けできることをうれしく思います。

小竹 直秀 機関誌は文字情報でのお届けでホッと一安心しています。読み応えがありますよ。

村井 庸平 これからのTOKYOは、古いだけでも、新しいだけでもない、新たな時代に入っていくことを体感しました。文化財、都市工学、社会学、観光、多彩なアカデミックの化学反応の時代へ。いざ！

黒田 裕治 基調講演の陣内先生のお話聞いて江戸城は江戸時代のものという前提を疑ってみること。すなわち、明治は江戸からの連続で、そして東京は東京都見るのではなく関東平野全体で観て、しかも時空を超越しなければ真実にたどり着かない。これは世界遺産を目指す我々にとって示唆に富むテーマです。

川野 恵可 陣内先生の基調講演と第一線でご活躍の専門家によるパネルディスカッションのシンポジウムの司会をさせていただき大変、緊張しましたが光栄でした。全体を通して、歴史に学び、現在、未来に生かすことだと思いました。

内田 久江 市民運動をスタートして以来15年余り多くのご縁があり多彩な人々との出会いがありました。

静かに、時に熱く語りあう日々が積み重ねられ、お蔭様で、今日のシンポジウム等の開催に至りました。振り返り、嬉しい思い出も哀しい出来ごとも、一つひとつの思い出が、今、走馬灯のように過ります。お力添えを戴いたみなさまに心より感謝を申し上げます。

本日の準備にご尽力戴きながら参加できなかった会員、ボランティア等のみなさま、誠に有難うございました。

これからも、「空想の翼で翔け、現実の山野を往こう」と、歩いて参ります
今後共、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション

来賓ご挨拶

国連世界観光機関 駐日事務所 代表
初代観光庁 長官

本保 芳明



只今紹介いただきました、国連世界観光機関駐日事務所の代表を務めております本保でございます。一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

3周年の特別記念シンポジウム&パネルディスカッション開催、誠におめでとうございます。江戸東京の歴史文化を広く捉えて、まちづくりという、さらに大きな形で議論されるようになったこと、大変時宜を得ていると思っております。

私自身は観光の仕事を長くしておりますので、その観点から申し上げますが、インバウンドは去年、約3200万人の外国人が訪れて4.5兆円のお金落とし、輸出産業として捉えれば、自動車産業、化学製品に続いて第3位になることもご案内の通りだと思えます。現下はインバウンドが蒸発してしまったという言葉が使われるくらいの状況でございます。

世界全体を眺めると、国際観光を後押しするトレンド、力は大変強いものでございます。色々な調査をしても、日本に行ってみたい人は世界に本当に多く、日本のインバウンドが活況を呈しているのはアジア諸国が経済成長してくれたおかげで、象徴的なのは一番のお客様である中国・韓国・台湾・香港だけで昨年時点、7割のお客様が日本に来ている状況でございます。

2018年のIMFの統計では、日本の一人当たりGDPは26位まで落ちており、一言で言えば、日本の国際的地位は下落し、凋落傾向が顕著だということでもあります。その中で多くの方々が注目し、力を入れているのが文化であります。いわば、経済大国の道から文化大国の道へ歩む、これが日本の活路として非常に重要ではないかと議論でございます。かつての軍事経済大国であったフランスが文化大国への道を進んだ。この後を追おうというような議論になるかと思っております。幸い日本の文化は大変豊かであることは、皆さま恐らく一致して認めてくださるところだろうと思っております。

しかし、OCD諸国の中でも国家予算の割合では最低の水準をいっています。幸い少し文化政策、文化戦略に変化が出てきており、行政組織に関するルールも随分変わってきております。こうした変化を推進されてきたのは官房長官だった菅さんで、菅政権に期待しているところでございます。

こういう流れを踏まえて、東京をどうするかということが大変重要だと思っております。しかしながら、この江戸城の問題も含めまして東京の持つ文化芸術のポテンシャルが十分に発揮されてきたかというのは、そうではないという現実にあるかと思えます。東京の歴史的な価値を再発見・再構築して、江戸東京の歴史文化に着目したまちづくりを進めることは大変重要であり、このシンポジウムに期待をするところでございます。

小竹理事長をはじめとする、財団法人江戸東京歴史文化ルネッサンスの皆さまそして共催の社団法人日本イコモス国内委員会に敬意を表しまして、本日の成功を祈って、私からのご挨拶の言葉とさせていただきます
以上

財団設立 3周年記念行事
第Ⅰ部 基調講演

江戸東京歴史文化のフィールドワークのパイオニアにして第一人者



財団の3周年を記念し、江戸東京の歴史文化を考える重要なシンポジウムの基調講演にお呼び戴き大変嬉しく思っております。

只今紹日本の人気観光地といえば京都であったが最近では外国人が東京に来たいという。東京は「西洋の文化を多く受け入れて近代化した都市」に見えるが、自然と対話したような江戸城の城下町として作られ、西洋化されず日本独特の都市が作られた。東京の魅力とは何か江戸のランドデザインからの視点で見てみよう。

1. 東京スカイツリーがなぜあの場所に建てられたのか

東京の街を船で観察するようにしたところ、それまで疎かにしていた東京の価値が見えてきた。大江戸鳥瞰図 江戸時代の鵜形蕙斎(くわがたけいさい)の描いた鳥瞰図で遠近法による江戸の街を表現している。鳥瞰図の視点にスカイツリーを建てた意義がそこにあり、描かれている隅田川は都市の淵にあった。セーヌ川沿いに、テムズ川沿いに発達したパリやロンドン等歴史的市街地は川沿いに発展。しかし江戸の街並みはさらに自然と一体となった都市空間を形成し、西洋や中国にはあり得ない。この視点こそが東京再発見のきっかけになる。つまり、江戸時代以前の時代や、江戸周辺のエリアを含めて時空を超えた視野でみる事とした。

2. 水都としての発展の仕方を比較してみる

江戸城やさらに浅草寺の歴史(7世紀)や待乳山伝承(推古天皇の時代)、梅若丸の民間伝承(977年)から見ると高いポテンシャルを持った土地であった。江戸時代には行楽地として栄え、遊郭や芝居小屋も移ってきたし、また漁業の発展も見られた。物流の中心である米倉は幕府方が中心で、町民の文化としては震災以後変貌を遂げていく。高度成長期に水質が悪化し臭くなって失われて行ったが今、もう一度蘇ろうとしています。



鵜形蕙斎「江戸一目図屏風」19世紀初め(津山郷土博物館蔵)

もう一つ重要なのが漁業の発展。浅草、深川、佃島(江戸時代家康が漁民を連れてきた)芝浦、品川、羽田へ。漁師のコミュニティがあり、町割り、敷地割、祭り(例:荏原神社の海中渡御/御神面神輿海中渡御『通称 かつば祭り』)が重要であった。これは外国人も近年大変興味を持って見ている。

3. 近代の東京(明治時代)もウォーターフロントの発展があった

文明開花のシンボルとして建てられた「築地ホテル」は築地外国人居留地であった。楓川沿い(日本橋川から分かれる)には日本で最初の第一国立銀行が設立され、近代日本のシンボルとなって行く。隅田川沿いにはジョサイア・コンドルが設計した初代日本銀行となる建物(ベネチアゴシックとイスラム様式でコンドルが設計)が登場し、その弟子辰野金吾が日本橋川沿いに建つ渋沢栄一邸を設計した。常磐橋の近くに辰野金吾設計の日本銀行がつくられたが、近年その免震工事が行われ、当時の技術の素晴らしさが調査でわかった。昭和初期に登場した日証館は、美しい自前の防潮堤をもつ素晴らしい建築であることがわかってきた。水から直接立ち上がる建築はもっと評価されるべきである。

シンポジウム&パネルディスカッション

東京に秘められた水都としての可能性

法政大学江戸東京研究センター 特任教授 陣内 秀信

4. 山の手の研究からいよいよ江戸城へ

江戸城すなわち現在の皇居を囲む内濠、外濠のもつ水の空間としての価値を考える。地形を活かしつつ人工的に創り上げた水循環を内包した空間構造は、世界でも極めてユニークで価値が高い。東京の都市空間を水の視点から再考する。7つの丘にうまく尾根道を通した。ローカルなコミュニティは谷合に発展した。武士と町民はお互いに助け合って生活圏を支え合っていた。凸凹地形からなる山の手を対象に、多くの大名屋敷が丘陵の斜面緑地に立地し、豊富な湧水を用いて回遊式庭園をつくった。第2期で日比谷入江に注いでいた「平川」を道三堀につないで流路を変更し、現在の日本橋川の原型を作った。そして第3期で内濠、外濠を整備した。世界の城を比較し、紫禁城はシンメトリーで真っ直ぐな作りであったが、江戸城は地形を読みながら動線を90度回転させながら登り、大奥のさらに奥に天守閣がある。明暦の大火後二の丸と本丸の間にあった濠が埋められたがそれ以外は変わらない。道灌堀もある。

1636年に完成した外濠も自然の地形を利用して四谷から流れていた紅葉川をさらに深く掘って作り、内濠も牛ヶ淵と千鳥ヶ淵を堰き止めてダムのようにして円盤状に結び水の循環系を作って行った。植栽で見ると現在この辺りは桜で有名だが、これは明治以後で防災上作られた江戸城周りに桜を植えることはなかった。これは石垣の研究とともに緑が増えた植栽の研究もあるべきです。さらに広げて「東京スリバチ学会」と連携して都市の凸凹の研究や上野の森の山の辺と水の辺がセットになっている空間の研究も万葉以来の日本人の憧れの対象として研究を進めて見たい。湧き水の循環や仕組みにも言及する。「神田上水」大名屋敷の研究や芭蕉庵、水神社、斜面緑地の研究、椿山荘、御茶ノ水渓谷。ここを神田川から船でみたらとてもいい。

5. 武蔵野、多摩地域に考察の対象を広げる

中世・古代、さらには縄文時代まで遡って、地形・地質、湧水、池、河川などの自然条件をからめつつ、東京郊外の地域に光を当て、地形と水からその個性豊かな成り立ちを研究して行く。武蔵野を代表する湧水池の井の頭池とそこに水源をもつ神田川。江戸初期に武蔵野台地の尾根筋に見事に掘削された玉川上水。国分寺の崖線の湧水を活かした近代庭園と用水沿いの古くからの農村集落。湧水依存の中世までの集落構造に加え、江戸初期の用水路建設で豊かな水田風景を形成した日野。こうした多彩な事例を通して水循環システムと多様な水辺環境の価値を明らかにしたいものである。

6. 水辺環境の価値

都市と田園を一体として捉え、農村の豊かさと都市の繁栄はつながっている。これらの多様な水資源と水の空間は東京の誇る大きな財産であり、その再評価は自然と人間の共生を目指す21世紀の世界の考え方にも大きな示唆を与えるに違いない。 以上



2020/10/10 第1版発行

財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション
第Ⅱ部 調査報告・江戸東京歴史文化回廊
都市史研究家 後藤 宏樹

調査報告は機関誌第3号、第7号別冊、第8-2号等、HPページでも報告しております。

江戸・東京の指定文化財と未指定も含めて約600件以上の歴史文化遺産を実際に歩いて画像と種別、地点(住所・緯度経度)情報、説明を一覧表とし、江戸時代から昭和初期、地域は御府内の旧15区、現在の8区を対象とし、調査しました。

さらに委員会討議のテーマを抽出して江戸城、大名屋敷、寺社、近代建築物、都市の課題、名所に関わる種別の調査を行いました。



1. 江戸東京の歴史的特性 次の五項目で整理しました。

- ①本丸周辺は城門や櫓などの建築物が保存・復元されています。
- ②江戸城は近世封建社会の確立と動向に対応して城郭整備が行われています。
 - ③江戸城外堀を中心に武家地、町地、寺社地が置かれ、日本橋を起点とする五街道と城下町が整備されたことです。
 - ④江戸の城下町の範囲は、現在の8区が該当、各区がそれぞれ文化財保護などに取組んでいるために、近世都市のあり方が解りにくくなっています。
 - ⑤皇居(皇城)となり、近代化や災害、戦後復興などの経緯を示す近代化遺産が分布しています。

2. 江戸の町割と地形

江戸城は武蔵台地縁辺に立地し、城下町は西の台地と東の低地からなり、7割が武家地といわれ、神田・日本橋といった東方低地に主要な町人地が置かれ、街道沿いに町人地が延びています。

3. 江戸と現代の街区比較

現在の街区の多くは江戸時代の町割の上に成り立っていることがわかり、起伏のある台地では尾根道と谷道を中心に町割りされ、現在も「●●坂」と名付けられ、江戸時代来の道筋が残ります。

4. 近代以降の行政区画

東京府は明治11年に旧御府内を15区に分割され、現在の8区に該当します。

5. 江戸城本丸の文化財

本丸には慶長11年、家康時代の工事で完成した曲輪の遺構が残り、三代家光の寛永年間に江戸城は完成し、現在の本丸周辺は、明暦大火後に改修された曲輪がみられます。

6. 江戸城外郭の文化財

大都市の高度利用、常に関発が進む都心にあって江戸城外堀の遺構が残ることは、貴重となっています。

7. 大名屋敷

全国約250家以上の大名が江戸に屋敷を構え、庭園等が25箇所、屋敷門が20箇所程現存しています。

8. 寺社地

城下町の周辺に多くの寺院が現存しています。特に寛永寺と増上寺は徳川将軍家の菩提寺です。

9. 江戸の名所 災害に関わる文化財

堀や海の沿岸が水害を頻発していたのも事実で、自然地形を大きく改変した大都市江戸の宿命でもあり、また、人口密集による火災被害を示す痕跡も文化財として残されています。

10. 近代の文化財

大名屋敷など実業家などの邸宅に引き継がれ、近代鉄道網などの文化財も残っています。

11. 歴史文化遺産の見える化

デジタル情報発信を活用し、Googleマップに画像と説明を落とすことによって、スマホやタブレットを持って文化財巡りができ、AR・VRを活用した取り組みでは江戸城本丸御殿をVRとして再現することも試みられています。

以上